

図工美術部会 理論 研修会 終了報告

テーマ	大切なものをつくり出すために	
日時	平成30年 7月 6日(金) 13:20~16:00	
会場	江別市立野幌若葉小学校	
講師	渡辺 貞之 氏 (肩書: 深川市アートホール東洲館 館長)	
参加者	約 30 名	
研修会 の 様子		<p>野幌若葉小学校3年生の児童を対象に、体育館で授業を行いました。はじめに「ワンちゃん先生」と呼ばれている、渡辺先生の自己紹介からスタートです。「なぜ僕は『ワンちゃん』なのでしょうか・・・?」と質問されると、ひとりひとりが想像力を駆使し、思い思いの回答を元気いっぱいに発表していました。授業の始めから子どもたちは興味津々で引き込まれていきました。</p>
		<p>ワンちゃん先生が黒板に「ワンちゃんの顔」を描きます。その表情をみんなで笑ったり泣いたり描き変えていきました。その後、画用紙を配布され「ワンちゃん先生の顔を描こう」との言葉を合図に、「ふつつの顔」を描きました。描き終わったら、前の人の絵を後ろに回し、画用紙を交換してから、次に「怒った顔」になるよう、消しゴムで消したり描き加えるなどして、表情を変化させていきます。続いて「笑った顔」・・・にして最後にはじめの紙に戻り、「泣いた顔」を描きました。出来あがった全員の作品をみんなで観賞しました。</p>
		<p>休憩の後に、新しい画用紙に「では、今度は自分の顔を描こう」と新しいテーマに取り組みました。一度描いてから「今度は年寄りにしてごらん」などの言葉で、再び消したり描いたり・・・自分の絵がどんどん変身していく様子にわくわく・大笑いしながら熱中していました。ワンちゃん先生から「この部分が面白いなあ」「ここ、うまいよ」「なかなかいいよ」などと一人ひとりに声をかけてもらいながら、作品を完成させました。</p>
		<p>講演会は「大切なものをつくり出すために」というテーマでお話をいただきました。今回の授業の目的は「子どもが自分で工夫し、間違えながら制作していくことである」。また「失敗をクリアする力＝生きる力であり、一番端的なのが図工美術。その中でも絵を描くことで力がつく」とおっしゃっていました。</p>
		<p>昔と今では、子どもたちの「絵の質」が変わってきているという話題では、実際に昭和10年代に描かれた子どもの絵をたくさん見せてくださいました。現在は“見て描く”が増え、“思った絵”“〇〇した絵”が減っているという指摘がありました。出来あがった作品について、どのように子どもの絵を鑑賞すると良いのか、ワンちゃん先生の実践を紹介していただきました。「創ったり描いたりすることが、人間の根幹の心理であり、非常に大切なことです」という言葉が心に響きました。</p>